

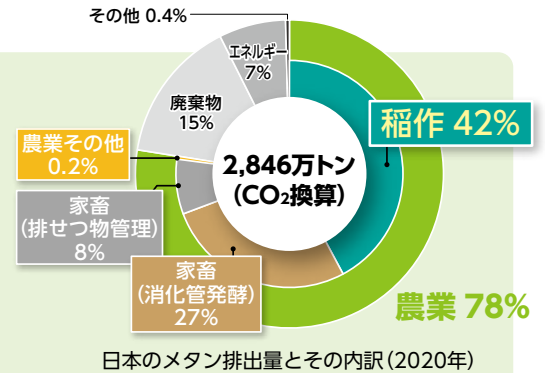
「みどりの食料システム戦略」は農林水産省が令和3年5月に生産から販売、消費に至るまでの食料システムを持続可能なものとするため、環境負荷の低減を図りながら、食料・農林水産業の生産力向上と持続性の両立を目指し策定したものです。

なぜ水田からのメタンを減らす必要があるのか

- 温室効果ガスの一つであるメタンはCO₂の約25倍の温室効果がある。
- 水田からのメタン排出は日本のメタン排出の約40%を占める



水田での取組で温室効果ガスの大幅な削減が必要！



秋のうちに稲ワラをすき込めば、湛水前に分解が進みメタン発生を減少させることができます。また、冬の間にも稲ワラの分解が進むことで「わき(湛水時のガス発生)」や窒素飢餓の防止になり、初期成育の確保につながります。

稲ワラすき込みは、強いイネ作りの効果や、病害虫や雑草を抑制する効果も期待できます。土中での稲ワラ分解が進むよう、収穫後速やかに行うことが大切です。

秋耕による病害虫への抑制効果



いもち病菌

菌は、種子や被害ワラで越冬し、翌年の発生源となりますが、腐熟、分解した稲ワラではいもち病菌は越冬できません。



黄萎病

イネの再生芽(ひこばえ)を、越冬前のツマグロヨコバイが吸汁して病原体を獲得し、虫の体内で病原が越冬して翌年の発生源となります。すき込みは、病原体を持ったイネの再生芽を枯死させ、ツマグロヨコバイの越冬場所を減らします。



紋枯病

紋枯病にかかると茎葉が枯れ上がり、未熟粒の増加や米粒が小さくなり減収します。今年度に多発した圃場では、特に注意が必要です。早期に稲ワラを深くすき込むことで、地中深くに菌核を埋没します。



ニカメイガ

一般的に幼虫が稲ワラの中で越冬するため、越冬幼虫を減らすことができます。

10/31
まで

令和5年 秋の農作業安全運動 展開中!

農業従事者の高齢化、農業機械の大型化などに伴い、農作業が集中する春と秋の農繁期を中心に、毎年多くの農作業事故が発生しています。特に、コンバインやトラクタの使用等に伴う基本操作ミスや安全確認不足による農作業事故の発生が多いので気を付けましょう!

